

マラソン交流で静岡県の魅力を発信！

スポーツの普及や交流などを通じて、「スポーツ王国しずおか」を目指す静岡県は、アスリートの育成やスポーツ人口の増大に向けた取組を積極的に行っている。今回はマラソンを通じた誘客による国際交流の展開を紹介する。

インバウンドの増加と新しい可能性

静岡県では、静岡マラソンや日本平桜マラソン、袋井クラウンメロンマラソンなど、規模の大きなマラソン大会が開催されている。こうした中、本県では、スポーツを通じて国内外との交流によって、経済、観光、教育、文化面などの活性化を目指す事業を推進しており、マラソンを通じて国際交流を促進し誘客を図る取組を行っている。

に周辺を観光することもできる。そこで本県はインバウンドを拡大し、本県魅力を海外へ発信するツールの一つとして、海外大会とのランナーの相互交流やマラソンツアーの造成促進を積極的に行っている。

今年3月に行われた「静岡マラソン」では台湾や香港からのランナーが急増している。特筆すべきは、その約半数が個人参加であること。口コミやSNSを介して参加したランナーは、さらに自分が感じた静岡の魅力や景色などの情報を拡散させている。この状況は今後のインバウンド拡大の鍵を握ると言われる個人旅行の推進力の一つになり得る。

マラソンは手軽に始められるスポーツで、特別な用具を必要としないため、海外の大会にも比較的参加しやすく、大会前後

昨年12月に開催された「袋井クラウンメロンマラソン」では、送客・受入の課題検証を兼ねて、中国人のモニターツアーを受け入れ、通訳や案内板など、言語や文化の違いによる課題を洗い出した。中国人ランナーたちは袋井の街並みに新鮮な驚きを感じており、何気ない静岡の景観が観光資源になる可能性も生じている。

旅行会社と連携しマラソンツアーを造成

近年、中国のマラソン人口が急増している。その伸び率は世界第2位と言われ、本県も中国



桜並木の中を走る「日本平桜マラソン」。



浙江省杭州市で開催される「杭州マラソン」。世界遺産「西湖」の湖畔を走る。



智美体育集団の任文総裁と川勝知事。昨年10月、戦略的連携における協定書を締結した。

市場の取り込みを始めている。

昨年10月、知事を団長とする訪問団が訪中した際、同国大手のスポーツイベント企業「智美体育集団」と戦略的連携における協定書を締結した本県は、同社と国内旅行会社とともに「日本平桜マラソン」のツアーを造

成した。また、今年11月に中国・浙江省で開催される「杭州マラソン」においても本県と中国双方の交流や招待選手との交換について浙江省政府と調整を始めており、それに併せて、県内旅行会社にツアー造成を働きかけていく予定である。「杭州マラソ

ン」の交流は本県と浙江省の友好提携35周年記念事業の一環でもあり、本県が進める地域外交においても、マラソンを人的な国際交流のツールとして生かしていく方針だ。本県は訪日旅行のゴールデンルート（東京→大阪）のほぼ中央

に位置し、富士山・温泉・緑茶をはじめとする農芸品といった観光資源も豊富だ。そのメリットを生かす上で、環境に対する負荷が小さく、健康にも良いマラソンは本県魅力を発信しやすいスポーツと言えるだろう。外国人受け入れの場数を踏め

ば、そこで培ったノウハウが2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック本県開催での海外アスリート受け入れにも生きてくる。「スポーツ王国しずおか」の実現に向け、本県はすでに走り出している。

今年の箱根駅伝で8区を走り区間賞を獲得、青山学院大学の大会3連覇に貢献した下田裕太さんが駅伝を始めたのは小山町立小山中学校の時だ。陸上部のない学校で即席チームの一員として走り、県で4位に。その後、加藤学園高等学校（沼津市）で本格的に陸上を始めたという。「地元の道はアップダウンが多く、信号待ちもほとんどないのでトレーニングに最適でした」と下田選手は振り返る。

今年の東京マラソンは怪我で出場を断念したが、2016年の同大会では日本人選手第2位となり、10代のマラソン記録も樹立した。ハードなマラソンの練習も駅伝で培ったチーム力で取り組み、全体で乗り越えてきたという。

「僕は原晋監督の「陸上を変えたい」という言葉に感銘を受けました。自分はもともとあまりタイムの良い選手ではなかったで、大学に入ったときのタイムは12人中後ろから3番目。でも監督と出会い、最先端のトレーニング理論に基づいた練習を積んで、ここまで成長できました。だから自分が東京オリンピックで活躍し、そうしたトレーニングを日本に広めていきたい」と下田選手。自分のためより「誰かのため」のほうが力を発揮できるタイプと自己分析する。

もう一つの夢は、来年最後の出場となる箱根駅伝で4区を走ること。「地元の小山町や沼津に近い区間なので、走っているところを地元の人に見てもらえたら」。屈託のない笑顔に目標達成の手応えが垣間見える。

下田裕太さん

青山学院大学陸上競技部 (長距離ブロック)

東京オリンピックで活躍して、自分を変えたトレーニング理論を広めたい。



2017年1月7日(土) 第93回箱根駅伝優勝報告会(青山学院大学 青山キャンパスにて)